



日本におけるHIV感染予防のための
曝露前予防(PrEP)

—利用者ガイド—

第1版

はじめに

この冊子は、
日本国内で PrEP を利用する人、
利用を検討している人向けのガイドブックです。

PrEP とは、曝露前予防(Pre-Exposure Prophylaxis)の略です。
PrEP は、HIV 感染の可能性のあるセックスの前と後に、
専用の薬を飲むことで、
感染リスクを大きく減らす方法のことで、
薬そのものを指して PrEP ということもあります(「PrEP を服用する」など)。

PrEP は、
正しく利用しないと HIV 感染を予防する効果が下がるだけでなく、
副作用が生じたりするおそれがあります。



このガイドブックには、
PrEP をおこなう上で知っておくべき情報について書いてあります。
PrEP を始める前に、
必ずこのガイドブックに目を通してください。

このガイドは、
『日本における HIV 感染予防のための曝露前予防(PreExposure Prophylaxis)利用の手引き』
【令和2～4年度厚生労働省科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)
「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」分担研究者：谷口俊文】
をもとに、利用者向けに作成したものです。



はじめに

#1.PrEP って、誰がどうやって使うの？

- 1.勧められている人たち …… P04
- 2.使用される薬 …… P06
- 3.二つの方法 …… P06
- 4.予防効果 …… P08
- 5.副作用 …… P09

#2.PrEPの開始、継続のために必要な検査とは？

- 1. PrEP開始前に確認すべきこと …… P10
- 2. PrEP開始時、開始後のフォローアップ検査について …… P10

#3.PrEPの中止や再開

- 1. PrEPの中止 …… P14
- 2. PrEPの再開 …… P14

#4.それぞれの立場に特有な問題

- 1.妊娠や授乳を希望する人 …… P15
- 2.トランスジェンダー …… P15
- 3.セックスワーカー …… P16
- 4.未成年 …… P16

#5.日本国内でPrEPをおこなう

- 1.PrEPの入手方法 …… P17
- 2.検査をどこで受けるか？ …… P17
- 3.高い効果をキープするために …… P18

#6.PrEPに関する情報 …… P19

PrEP、 誰がどうやって使うの？

01 勧められている人たち

性別や性的指向にかかわらず、
セックスをする人や注射薬物を使用する人は、
誰でも PrEP をおこなえます。

中でも、特に以下の人たちに対して、
HIV 予防の手段の一つとして勧められています。

- (1) HIV 感染のリスクが高いセックスをおこなう人
- (2) HIV 感染リスクが高い方法で注射薬物を使用する人

HIV 感染の
リスクが高い
セックスを
おこなう人

HIV 感染の
リスクが高い方法で
注射薬物を
使用する人

● HIV 感染リスクの高いセックスとは？

次のようなことが、過去 3 ヶ月にあった、
あるいは今後 3 ヶ月にあると思われる場合に、PrEP が推奨されています。

1

次の相手との、コンドームなしのアナルセックスや膣性交をする場合
(コンドームが破れたり、ズレたりした場合も含む)。

- > 治療を受けてない HIV 陽性のパートナー
- > 治療を受けているが、ウイルス量が検出される HIV 陽性のパートナー
- > HIV 感染の有無がわからないパートナー
- > カジュアルな関係にあるパートナー

2

直腸への淋病、
クラミジア、または梅毒の感染
(PrEP を始める前の検査で診断された場合を含む)

3

薬物を使ったセックス

4

ウイルス量にかかわらず、
HIV 陽性のパートナーと妊娠を目的とした
計画的なコンドームなしのセックス(挿入する側、される側)

5

HIV 感染率の高い国への渡航の予定があり、
その間に、HIV 陽性または HIV 感染の有無が不明の人と
コンドームなしのセックスをする可能性がある

6

メンタルの状態の悪化による HIV 感染の予防行動への不安

7

アルコールの摂取や薬物使用による、HIV 感染のリスク行動の高まり

セックスワーク (特に挿入行為がある場合)

8

また、以下のような場合にも、
PrEP を検討してもいいかもしれません。

> HIV 陽性者と陰性者のカップルで、

陽性者が治療によりウイルス量が抑制されているが、HIV 感染について不安を感じている場合

> HIV 感染に対する不安のため、定期的な HIV 検査やセックスができない場合

> 性器の潰瘍や皮膚病変 (乾癬など) が繰り返される人でセックスがある場合

※なお、MSM(男性とセックスする男性)なのか、異性間のセックスをするシスジェンダー*なのか、
あるいはトランスジェンダー**の方でホルモン治療を受けているのかいないのかによって、
利用できる PrEP の方法が違います。これについては、「二つの方法」(5 ページ)で説明します。

*シスジェンダーとは…生まれたときに割り当てられた性別が、性自認や生活上の性別と一致する人のことです。
シスジェンダー男性をシス男性、シスジェンダー女性をシス女性とも言います。

**トランスジェンダーとは…生まれたときに割り当てられた性別が、性自認や生活上の性別と異なる人のことです。
男性から女性へのトランスジェンダーはトランス女性、女性から男性へのトランスジェンダーはトランス男性と言います。

● HIV感染リスクが高い注射薬物の使用

次のようなことが、過去3ヶ月にあった、
今後3ヶ月にあると思われる場合に、PrEP が推奨されています。

3

HIV 陽性者または
HIV 感染の有無がわからない相手と注射器具を共用

1

薬物を使っでのセックス

HIV 感染率の高い国への渡航の予定があり、
その際に、HIV 陽性または HIV 感染の有無が不明の人と
薬物を注射する可能性がある

2

* PrEP で HIV 感染を予防しても、
注射器具の共用は、B 型肝炎ウイルスなど他の感染症に感染する可能性が高いため、
自分だけが使用する清潔な注射器具を使用するようにしましょう。

02 使用される薬

2種類
あるよ

PrEP で使用される薬には、2種類あります。
TDF/FTC*1 と TAF/FTC*2 です。
これらは成分名です。商品名は別にあります。
正規品とジェネリックによって商品名が異なりますが、
効果は同じです。



>どちらも、HIV の治療薬ですが、これらの薬だけでは HIV の治療はできません。
もし、PrEP をしている間に HIV に感染した場合には、PrEP を止める必要があります。
耐性ウイルスが発生するおそれがあるからです。
ただし、中止するときにも、気をつけなければならないことがあります。
詳細は、「PrEP の中止」(P14 ページ)をご覧ください。

>2022 年 11 月現在、この 2 種類以外の HIV の治療薬は PrEP に使えません。

以下、このガイドでは、わかりやすいように略称の違う部分を強調して、TDF/FTC、TAF/FTC と記します。

*1 テノホビル・ジソプロキシサルフェート (TDF) とエムトリシタビン (FTC) の合剤、商品名：ツルバタ配合錠など
*2 テノホビル・アラフェナミドフマル酸塩 (TAF) とエムトリシタビン (FTC) の合剤、商品名：デシコビ配合錠など

03 二つの方法

2つの
飲み方



PrEP には二つの方法があります。
以下の説明をよく読んで、自分に合った方法を選んでください。

- (1) デイリー PrEP (毎日 1 錠を飲む)
- (2) オンデマンド PrEP (セックスの前後にだけ飲む)

● デイリー PrEP とは？

毎日錠 同じ時間に服用する (デイリー / Daily PrEP)

男性同性間の性行為をする MSM、男女間の性行為をする方、
トランスジェンダーの方、注射薬物を使用する方、すべての方に有効性が確認されている方法です。

1 日 1 回決まった時間に 1 錠、リスク行為のあるなしに関わらず、毎日内服します。
飲み始めて 7 日以上経過したら、薬の効果が得られます。

なお、何時間か前後しても、薬の濃度に悪影響はありません。
1日飲み忘れても、翌日に2錠を飲む必要はありません。



ただし、MSM(男性とセックスする男性)、同性愛のシスジェンダー男性、およびホルモン治療を受けていないトランス女性で、TDF/FTCを使う場合は、次で説明するオンデマンドPrEPと同様に、セックスの24時間～2時間前に2錠飲むことで開始できます。

デイリーPrEPのメリット

- ・飲むタイミングの間違えが少ない
- ・セックスの計画をたてられないケースの心配がいらぬ
- ・慢性B型肝炎のある人も使える可能性がある

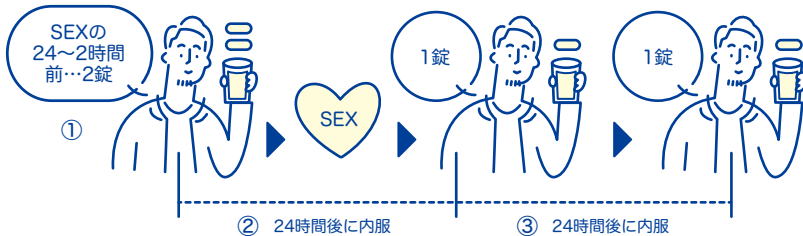


● オンデマンドPrEPとは？

リスク行為の前後で内服する(オンデマンド/on demand PrEP)

MSM(男性とセックスする男性)、同性愛のシスジェンダー男性、およびホルモン治療を受けていないトランス女性が使用できます。

性行為の頻度があまり多くない人、性行為の予定が決まってい事前に内服が可能な人、経済的な負担の軽減をしたい人は、PrEPのオプションとして検討することができます。



- ①性行為の24時間～2時間前に2錠、②最初の内服から24時間後に1錠
③さらに最初の内服から48時間後(②回目の24時間後)に1錠を内服し(2-1-1)、終了する方法です。必ずこのサイクルを守るようにしてください。

※②と③は、セックスの終了のタイミングからの時間ではなく、
①(最初の服用)の時間が基準になっていることに注意が必要です。

※なお、慢性B型肝炎に感染している人はオンデマンドでは利用できません。

オンデマンドPrEPのメリット

- ・毎日の PrEP による副作用、腎機能低下の可能性を下げられる。
- ・経済的負担の軽減。

ON
SEX!!



*セックスが続く場合

セックスが連日ある場合は、24 時間ごとに 1 錠飲み続け、最後にセックスのあった日から 2 日後(翌日、翌々日)まで飲みます。

*オンデマンドの間隔

最後の PrEP の錠剤の服用から、次のセックスまでの間の日数が

- ①7 日未満の場合 … セックスの 24 時間～2 時間前の服用を、1 錠にして良い
- ②7 日以上の場合 … 振り出しにもどり、07 ページの 2 錠 -1 錠 -1 錠…で PrEP をおこなう

誰が使えるのか……

		MSM	ヘテロ シス 男性	シス 女性	トランス 男性	トランス女性		注射 薬物 使用者	慢性 B 型 肝炎
						ホルモン有	ホルモン無		
デイリー	TDF/ FTC	○	○	○	○	○	○	○	○
	TAF/ FTC	○	○	×	×	○	○	×	○
オンデマンド	TDF/ FTC	○	○	×	×	×	○	×	×
	TAF/ FTC	TAF/FTC は、オンデマンドでは使用できません							

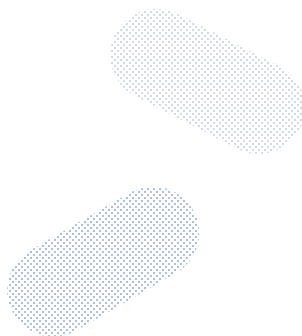
04 予防効果

- 海外の MSM を対象にしたある研究では、週 7 回の服薬で 99% HIV 感染リスクを下げるという推計も出ています。
- 薬物注射をおこなう人に関する調査でも、HIV 感染リスクを 74% 低下させる効果があったと報告されています。
- 日本では、国立国際医療研究センターでおこなった、MSM を対象としたデイリー処方では、2 年間(235.5 人/年)の追跡で、HIV 感染報告はありませんでした。

05 副作用

PrEPの服用開始後、副作用として、頭痛、吐き気、腹部膨満感が出る場合があります。しかし、多くは軽く、1か月ほどで無くなることがほとんどです。しかし、副作用がきつい場合、気になる場合は、医師に相談してみてください。

また、熱、倦怠感、風邪のような症状(インフルエンザ様症状)があった場合、副作用ではなく、PrEP開始前や直後のHIV感染の可能性もあることから、早めに医師に相談してください。



PrEP の開始、 継続のために必要な検査とは？

01 PrEP開始前に確認すべきこと

インターネットで購入して PrEP をおこなうときも、
病院やクリニックで検査を受け、
必ず次のことを確認してください。

- HIV に感染していないか
→ 感染していた場合には薬剤耐性が生じてしまう可能性があるため、
PrEP をおこなわず、HIV の診療を受けます。
- 性感染症(梅毒、淋病、クラミジア)に感染していないか
→ 感染していた場合は、
性感染症の治療を進めながら PrEP をおこなうことができます。
- 腎臓に異常はないか
→ 腎機能の程度によって、TAF/FTC しか使えない場合や、
PrEP を開始できない場合があります(詳しくは、腎機能の説明を参照)。
- B 型肝炎ウイルスに感染していないか
→ B 型肝炎の状態により判断されます。
慢性 B 型肝炎感染症の場合には、オンデマンドでの PrEP はおこなうことができません。



PrEP開始時、 開始後のフォローアップ検査について 02

HIV や性感染症の検査は、
保健所などで実施している検査や郵送検査などを利用したり、
腎機能や脂質代謝などの検査は
会社や自治体が発行する健康診断を活用したりする方法もあります。
また、大都市では、PrEP 見守り診察として、
PrEP をする時に必要な検査やカウンセリングをおこなっている医療機関もあります。

PrEP 開始時、開始後のフォローアップ検査表

	開始時	1ヶ月後	3ヶ月ごと	6ヶ月ごと	12ヶ月ごと
(1) HIV	★★★	★★★	★★★		
(2) 性感染症	★★		★★ リスクが高い場合	★★ セックスがあれば	
(3) 腎機能 eCrCl	★★★			★★★ 50歳以上や eCrCl<90	★★★ 全員
(4) B型肝炎	★★★				
(5) C型肝炎	★				★
(6) 妊娠	★		★		
(7) 脂質代謝	★				★

★★★ … 必須 ★★ … 強く推奨 ★ … 推奨(一部、対象により)



HIV

HIV 感染に気づかず PrEP をおこなうと、
耐性ウイルスができる可能性があります。
そのため、開始前と開始後の定期的な検査が必ず必要です。

- 開始(または再開)する前の 1 週間以内に、必ず HIV の抗原・抗体検査(第四世代と呼ばれる検査)による陰性を確認してください。
- 開始から 1 ヶ月後に、開始前と同じように HIV の抗原・抗体検査(第四世代と呼ばれる検査)を受けます。
- その後、3 ヶ月ごとに HIV 検査を受けます。
- PrEP 開始後、発熱、倦怠感、風邪のような症状(インフルエンザ様症状)があった場合は、急性 HIV 感染症の可能性もあるので、なるべく早く医師に相談しましょう。
- HIV 感染がわかった場合は、すみやかに PrEP を中止して、HIV 拠点病院で診察を受けてください(拠点病院の案内サイト <https://hiv-hospital.jp>)。
- 慢性 B 型肝炎がある場合は、休止の仕方について医師に相談してください。

2

性感染症

PrEP では、HIV 以外の性感染症を防ぐことができません。
感染の可能性がある場合、開始前と開始後の定期的な検査が強く勧められています。

- 開始前に、
性感染症(梅毒、淋菌、クラミジア)の検査を受けることが強く推奨されています。
- 性感染症の感染があっても、治療をしながら、PrEP を始めることができます。
- 開始後、性感染症の感染のリスクが高い人は3ヶ月ごとに、
リスクが高くないがセックスがある人は6ヶ月ごとに検査を受けます。
- また、定期検査の時期でなくとも、
性感染症の感染の可能性のある行為があり、症状があった場合は、検査を受けましょう。
- 性感染症の感染があった場合は、
PrEP に加え、コンドーム使用の徹底など「より安全なセックス」をおこなうことが勧められています。

3

腎機能



PrEP により腎機能が低下することがあるため、
開始前と開始後の定期的な検査が必要です。

PrEP の服用に関しては、
腎機能の状態を測る eCrCl(クレアチニン・クリアランス)という値で判断します。
腎機能が低下すると、数値が下がります(以下、ml/min は eCrCl の数値です)

- PrEP 開始前に、必ず腎機能の検査を受けてください。
- 60ml/min 以上の場合は、
TDF/FTC、TAF/FTC ともに安全に利用できます／継続できます。
- 60ml/min 未満でも、30ml/min 以上の場合は、安全に TAF/FTC を利用できます。
- 50 歳以上、90ml/min 未満の人は、腎機能悪化の可能性があるため、
開始時とその後6ヶ月ごとに受けてください。
それ以外の人は12ヶ月ごとに腎機能検査を受けます。

*eCrCl の計算…クリニックや病院で検査をして確認しますが、
健康診断などで血清クレアチニン値が出ている場合は、
自分でインターネット上で計算することができます
(「クレアチニンクリアランス計算ツール」で検索すると、計算ツールが出てきます)。
なお、計算ツールには「性別」を入力する必要がありますが、
ホルモン療法を6か月以上実施しているトランスジェンダーの場合は、
計算式で性別移行後の性別を選択してください。



B 型肝炎

4

B型肝炎ウイルスは、HIV と同様、セックスや注射器具の共用によって感染します。
したがって HIV 感染のリスクが高い人は、
同時に B型肝炎ウイルスに感染するリスクも高いと言えます。
一方、PrEP に使われる薬(TDF/FTC や TAF/FTC)は、B型肝炎ウイルスにも効果を持っています。
したがって、もし B型肝炎ウイルスを慢性的に持っている人が急に PrEP を中止すると、
肝炎ウイルスが体の中で暴れ出し、肝炎が急激に悪化する場合があります。

- PrEP 開始前に、必ず B 型肝炎ウイルスの検査を受けてください。
- B 型肝炎に感染していることが判明した場合は、PrEP を提供する医師または B 型肝炎の専門医への相談が必要です。
- 慢性 B 型肝炎に感染している人は、オンデマンドで PrEP をしてはいけません。
- 慢性 B 型肝炎に感染している人が PrEP を中止する場合には、必ず医師と相談してください。
- B 型肝炎にはワクチンがあります。抗体が陰性で感染の可能性がある人は、ワクチン接種を検討しましょう。

C 型肝炎

C 型肝炎の検査は必須ではありませんが、HIV 感染リスクの高いセックスをおこなう MSM、注射で薬物を使用する人には、検査が勧められています。

妊娠検査

- 女性と、卵巣と子宮を残しているトランス男性は、開始前と 3 ヶ月ごとに妊娠検査を受けることが勧められています。
- PrEP をおこなっている間に、妊娠、授乳の必要が生じた場合については、「妊娠や授乳を希望する人」(15 ページ)を参考にしてください。

脂質代謝

- TAF/FTC 服用者は、脂質異常と体重増加を起こす割合が高いことが報告されています。
- TAF/FTC 服用しているすべての人に、12 ヶ月ごとの脂質チェックが勧められています。

その他…骨密度

まれに骨密度が低下することがありますが、骨折に至ることはありません。しかし心配な場合は、医師にご相談ください。

PrEP の中止や再開



01 PrEPの中止

安全に PrEP の使用を中止するために、PrEP で診療を受けているクリニック、病院があれば、まず担当医と相談してください。特に、慢性 B 型肝炎のある方は、中止の仕方によって悪化することがありますので、医師への相談が必要です。

●デイリー PrEP は、TDF/FTC でも TAF/FTC でも、リスクのある行為から 7 日間服用することで安全に中止できます。

●MSM(男性とセックスする男性)、異性愛のシスジェンダー男性、およびホルモン治療を受けていないトランス女性が、TDF/FTC でデイリー PrEP をおこなっている場合は、リスクのあるセックスを最後におこなってから 2 日間、24 時間後と 48 時間後に 1 錠ずつ服用することで安全に中止できます。

*PrEP の使用を中止した直後に HIV に感染したという報告もあります。PrEP 終了後も HIV 感染リスクがある場合、他の方法(コンドームを使うなど)で HIV 感染予防をおこなってください。

PrEPの再開 02



基本的に、最初に始めたときと同じように、HIV 検査を含め、始める前に受けたすべての検査を受けるところから始めます。

#4

それぞれの立場に 特有な問題

01 妊娠や授乳を希望する人

女性が妊娠を希望する場合や、
妊娠の機能を残しているトランス男性が妊娠を希望する場合
(=コンドームなしの膣性交をおこなう場合)の PrEP は、
TDF/FTC をデイリーでおこないます。
※もう一方の TAF/FTC は、女性への PrEP 使用はできません。



HIV に感染しているパートナーが、
治療により血液中のウイルス量が検出限界値以下を維持している場合、
HIV 感染リスクはありません*。

*このような状態を U=U(ユー・イコールズ・ユー)と言います。
直訳すると「未検出は、感染させない」を意味する
Undetectable=Untransmittable の略です。

しかし、
U=U の相手との間に子どもが欲しいと思っている女性やトランス男性が、
より安心感を得るために PrEP をおこなうことは可能です。

アメリカ食品医薬品局 (FDA) では、
妊娠中および授乳中の女性が、PrEP で TDF/FTC を使うことが承認されています。
出生前の PrEP 使用による、
乳児の成長等への影響は見られなかったという研究結果が出ています。

授乳での安全性は、十分に検討されていません。
しかし、過去の HIV 陽性である母親の出産、授乳に関する研究から、影響は限定的と予測されています。

02 トランスジェンダー

トランス女性(出生時に割り当てられた性別が男性で、
性自認が女性)について女性ホルモンの投与を受けている場合、
おこなえる PrEP はデイリーだけです。

なお、PrEP の服用による女性ホルモンのレベルに変化はありません。
つまり PrEP によって投与している女性ホルモンの効果が低下することはありません。
一方女性ホルモン剤を使用していることにより、
PrEP の薬の濃度が若干低下する可能性があると言われています。
それでもデイリー PrEP を毎日欠かさず内服できれば、
HIV 感染予防効果に影響はないと考えられています。
女性ホルモンが HIV 予防効果のある成分を低下させる可能性が指摘されていることから、
より一層、定期的に飲むことが必要となります。

女性ホルモンの投与を受けておらず、
男性とセックスするトランス女性の方は、MSM と同じ条件となります。

●トランス男性(出生時に割り当てられた性別が女性で、性自認が男性)
トランス男性における PrEP の有効性に関するデータは少なく、
ホルモン剤が PrEP に与える影響は、まだ結論が出ていません。

●PrEP では、出生時の性別やホルモン治療等の影響が重要です。
そのため、ホルモン治療や性別適合手術を受けてない人は、
PrEP の使用に関しては出生時の性別と同じ条件になります。
よって、【服装や化粧などで性別を移行し、ホルモン治療を受けていない
トランス女性(男性から女性へのトランスジェンダー)で、男性とセックスのある人】も、
PrEP に関しては、MSM と同じ条件になります。



03 セックスワーカー



世界的に、セックスワーカーは、
HIV 感染リスクにさらされがちです。
また、STI のリスクが高いことも知られています。
全てのジェンダーのセックスワーカーに、
それぞれに合わせた方法での PrEP の利用が勧められています。

04 未成年

18 歳未満の人がデイリーで PrEP をおこなうことには、
成長期の服用にともなう骨密度の低下などの問題が生じる可能性が指摘されています。
医師と PrEP の開始について相談するのがいいでしょう。

日本国内で PrEPをおこなう



01 PrEPの入手方法

- 日本では、2022年11月現在、PrEPで使う薬剤としては、TDF/FTC、TAF/FTCどちらも承認されていません。
- 安全なPrEPの実施のためには、クリニックで処方を受けることを推奨します。やむを得ない事情で、個人輸入を行う場合は、以下のサイトおよび巻末の情報提供サイトに関する情報を参照してください。
- 医薬品等の個人輸入について
個人使用目的の輸入は、1回に購入できるのは1か月分までとなっています。また個人輸入した薬を、ほかの人へ売ったり、譲ったりすることは認められていません。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/kojinyunyu/topics/tp010401-1.html

02 検査をどこで受けるか？

- 大都市では、PrEPの処方と、そのための検査を提供しているクリニック、病院があります。
- 上記のようなクリニック、病院には、個人輸入している人のために、必要な検査やカウンセリングを提供しているところもあります。
- クリニック、病院ではHIVや性感染症などの検査も含め、基本的にすべて保険適用外で自費となります。
- 近くに適切なクリニック、病院がない場合には、オンライン診療する医療機関を調べてみてください。
- 経済的に検査全てを自費負担できない場合、HIVや性感染症の検査は、保健所などで実施している検査や郵送検査などを利用したり、腎機能や脂質代謝などの検査は会社や自治体を実施する健康診断を活用したりする方法もあります。

03 高い効果をキープするために

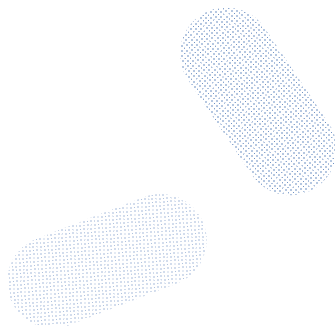
正しい方法で PrEP をおこない服薬率を保つことは、とても大切です。
服薬率が下がると、HIV 感染の可能性が出てきます。
また、耐性を持つウイルスが生じる可能性も出てきます。

飲む予定の時間にアラームをセットしたり、
スマホのスケジュールに書き込んで、
通知されるようにするなどの工夫をしてみましょう。

また、PrEP をおこなっていても、
HIV 感染のリスクは下げられますが、性感染症の予防はできません。
アナルセックス、
膣性交におけるコンドームの使用などのより安全なセックスが重要です。

また、薬物注射をする人は清潔な注射器具の使用を心がけてください。

さまざまな不安や相談に対応する web や相談サービスがあります。
一人で悩まずに医療従事者に相談したり、
巻末の情報を参考に話せる相談先を探してください。



PrEP に関する情報

#6

日本語サイト

●PrEP@TOKYO

PrEP に関する包括的な情報を提供している
<https://hiv-prep.tokyo/>

●国立国際医療研究センター SH(Sexual Health)外来

<http://shclinic.ncgm.go.jp/>

●PrEP in JAPAN

特定非営利活動法人ぶれいす東京が運営。PrEP を含む性の健康について情報発信している
<https://prep.ptokyo.org/>

●PrEP 見守りリンク集

<https://prep.ptokyo.org/facilities>

英語サイト

●WHO(世界保健機関) PrEP 特設サイト

PrEP Implementation Tool(実装のためのガイダンス)など充実している
<https://www.who.int/teams/global-hiv-hepatitis-and-stis-programmes/hiv/prevention/pre-exposure-prophylaxis>

●米国疾病対策センター(CDC;Centers for Disease Control and Prevention)

<https://www.cdc.gov/hiv/risk/prep/index.html>

●豪州(オーストラリア)ASHM

(Australasian Society for HIV, Viral Hepatitis and Sexual Health Medicine)
<https://ashm.org.au/hiv/prep/>

●英国 i-base

<https://i-base.info/guides/prep>

●英国 PrEPster

イギリスを中心とする PrEP の情報提供サイト
<https://prepster.info/>

●PrEP FAQ

Facts Group による PrEP に関する FAQ
<http://prep-faq.com>

【医療者、行政むけガイドライン】

日本における HIV 感染予防のための曝露前予防(PreExposure Prophylaxis)利用の手引き
(第1版 2022年9月30日)

令和2～4年度厚生労働省科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」

研究分担者：谷口俊文、研究代表者：水島大輔



日本における HIV 感染予防のための曝露前予防 (PrEP) <利用者ガイド>

第1版 2022年11月10日

令和2～4年度厚生労働省科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」

研究分担者：生島嗣、研究代表者：水島大輔

編集協力者

山口正純(一般財団法人博慈会 長寿リハビリセンター病院)

翁長祐太(カラフル@はーと)

砂川秀樹(明治学院大学ボランティアセンター)